

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 外国人患者受入環境整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医事係 電話番号：058-272-1111 (内 2527)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,400千円 (前年度予算額：2,400千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 2,400 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,400 |
| 要求額 | 2,400 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,400 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本県における在留外国人数は、約6万人で、外国人患者の医療機関への受診も増えている。また、現在のコロナ禍にあつては、在留外国人の新型コロナウイルス感染事例も発生しており、医療機関において多様な言語に対応する必要性が一層高まっている。

しかしながら、医療機関にとって全体的には外国人患者は少数であり、多様な言語に対応することはコスト面からも困難なことから、医療通訳の積極的な雇用や外国語に対応するサービス導入が行われにくい。

令和3年5月に県内医療機関に対して行ったニーズ調査によると、「多言語ツール (会話集、指差しツール、アプリ等) の導入」が必要と考える医療機関が多く、また、病院だけでなく外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関となっている診療所においてもニーズがあった。

* 調査対象：133施設 (全病院 97 及び外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関である診療所 (一般 29、歯科 7))

医療現場におけるコミュニケーションの不足は、診療時間を長引かせるのみならず、感染症感染など医療事故の原因にもなりかねないため、行政による外国人患者の受診体制の整備を引き続き推進していく必要がある。

(2) 事業内容

【対象経費】

- ①新たな医療通訳の雇用に係る人件費（試用期間を含む。）
- ②医療通訳サービス等の導入に係る経費
- ③多言語対応ツール（タブレット、ポケトーク、会話集、指差しツール等）の導入に係る経費

【補助対象者】

病院、外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関となっている診療所

【補助率等】

- 補助率：1 / 2
- 補助基準額：①は、100 千円（1 人当たり月額）
②は、1,200 千円（1 医療機関当たり）
③は、400 千円（1 医療機関当たり）

(3) 県負担・補助率の考え方

外国人患者の受入環境整備に対する補助は、医療機関における負担を求め、補助率 1/2 とする。実施期間は最長 3 年までとする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|---|
| 補助金 | 2,400 | ①600 千円（50 千円×1 病院） ②1,200 千円（600 千円×2 病院） ③600 千円（200 千円×3 病院） |
| 合計 | 2,400 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（施策編）

1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり (2) 誰もが活躍できる社会

医療通訳ボランティアの育成・確保を進めるほか、市町村や医療機関等と連携し、外国人患者の受診体制の整備を推進する。

県単独補助金事業評価調書

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

(事業内容)

| | |
|-----------|---|
| 補助事業名 | 外国人患者受入環境整備事業費補助金 |
| 補助事業者（団体） | 病院、診療所 (理由) 外国人患者受入機関である。 |
| 補助事業の概要 | (目的) 外国人患者の受入環境を整備する。 (内容) 医療通訳者の雇用、医療通訳サービスの導入及び多言語対応ツールの導入に対する補助 |
| 補助率・補助単価等 | 定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 補助率 1/2 (理由) 医療機関における負担を求める。 |
| 補助効果 | 外国人患者の受入環境整備によって、全ての住民が安心して医療サービスを受けられる環境整備が図れる。 |
| 終期の設定 | 終期 令和 5 年度 (理由) 創生総合戦略終期のため |

(事業目標)

| |
|--|
| <p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>医療通訳の雇用等、外国人患者の受入環境整備によって、円滑な診療及びコミュニケーションを促進し、全ての住民に安心・安全な医療提供体制を整備する。</p> |
|--|

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R2 年度 実績 | R3 年度 目標 | R4 年度 目標 | 終期目標 (R) | 達成率 |
|-------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------|
| | | | | | | % |
| ① 補助金を交付した 病院数 | | 5 | 4 | 6 | 5 | 100% |
| ② | | | | | | % |

| | H30 年度 | R 元年度 | R2 年度 |
|---------|----------|--------|--------|
| 補助金交付実績 | 1,518 千円 | 924 千円 | 714 千円 |

(これまでの取組内容と成果)

| | |
|-------|--|
| 令和2年度 | <ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 外国人患者の受入環境を整備するため、医療通訳者の雇用、医療通訳サービスの導入に対する補助を実施。 外国人患者の受入環境の充実及び病院内の勤務環境の改善。 |
| | 指標① 目標：4 実績：4 達成率：100% |
| 令和3年度 | 令和5年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__% |
| 令和4年度 | 令和6年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__% |

(事業の評価)

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p> | |
| (評価) 3 | 医療現場におけるコミュニケーション不足は円滑な診療を妨げるが、医療機関にとって日本語の理解が不十分な患者は少数であり、医療通訳の積極的な雇用等が行われにくい状況であることから、県による支援が必要である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <p>3：期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満)</p> | |
| (評価) 3 | 新たに医療通訳の雇用や医療通訳サービスの導入をする病院があり有効 |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p> | |
| (評価) 2 | 医療機関における、単独での医療通訳の雇用等が行われにくい状況であるため効率的。 |

(今後の課題)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>事業終了後の継続的な雇用等</p> |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>ニーズ調査で要望の高かった多言語対応ツール (会話集、指差しツール、アプリ等) の導入に係る経費を補助対象として新たに追加。</p> |
|---|

